第32回我孫子サイエンス
カフェコラム@北近隣センター

「コペンハーゲン」観劇記

我孫子の物理学者
細谷暁夫

世田谷:三軒茶屋

COPENHAGEN

Written by MICHAEL FRAYN

シス・カンパニー公演

コペンハーゲン

作：マイケル・フレイン　翻訳：小田島 恒志　上演台本・演出：小川 絵梨子

1941年秋、ナチス占領下のデンマーク・コペンハーゲン。ドイツ人の物理学者ハイゼンベルク（段田安則）は、かつて師とも慕っていたユダヤ系物理学者ボーア（浅野和之）とその妻マルグレーテ（宮沢りえ）を訪ねた。
共に同じ研究の道を歩んできたはずが、今や敵対する国家に生きる2人の科学者。
あの日、2人は何を語り合い、妻は何を見つめたのか・・・？
のちの核開発競争を左右したという、史実にも残るあの謎の1日に大胆に迫る！

ハイゼンベルク
段田 安則

マルグレーテ
宮沢 りえ

ボーア
浅野 和之

Staff

作	マイケル・フレイン
翻訳	小田島 恒志
上演台本・演出	小川 絵梨子
美術	伊藤 雅子
照明	原田 保
衣装	前田 文子
音響	加藤 温
ヘアメイク	宮内 宏明
舞台監督	瀬崎 将孝
プロデューサー	北村 明子
演出助手	山崎 雄司
美術助手	久保田 悠人
照明操作	小暮 寿代
演出部	川嶋 清美／清水 将司
制作　【進行】	古澤 尚子／土井 さや佳／海老名 あづき 鈴木 瑛恵／石野 奈穂子
【宣伝】	笠間 美穂
【広報】	西村 聖子
大道具制作	株式会社劇場舞台美術部（石元 俊二）
小道具	高津装飾美術座（大野 雄太）
衣装制作	東京衣装座（本多 あゆみ）
履物	座神田屋（大石 雅章） ダンスシューズ大木
プロンプター	野上 絵理（演劇集団円）
コスメ提供	MIMC

協力	㈱クリエイティブ・アート・スィンク FAT OFFICE M's factory 細谷 明夫（東京工業大学名誉教授）
上演権コーディネート	マーチン・R.P・ネイラー
マネージメント協力	㈱COME TRUE ㈲エム・ツー企画
宣伝美術	平田 好
舞台写真・パンフレット撮影	加藤 孝
パンフレットヘアメイク	藤原 羊二（EFFECTOR） 千吉良 恵子（check one）
パンフレット編集・取材	市川 安紀（アルカディア社）
印刷	㈱湯雪印刷 ㈱三交社
ナラシ画	Vilhelm Hammershoi
提供	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター
後援	世田谷区
企画・製作	シス・カンパニー

2016年6月4日（土）～7月3日（日）　シアタートラム

（開場は開演の30分前）

2016年 6/4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 7/1 2 3

2016年(平成28年)6月7日(火曜日)　夕刊　讀賣新聞

STAGE

写真・加藤

評

コペンハーゲン（シス・カンパニー）

科学者の苦悩と葛藤

英国の劇作家マイケル・フレイン作で本国では1998年に初演された3人のみの会話劇。現在考え得るベストの出演者がそろった。小田島恒志訳、上演台本・演出は小川絵梨子。

1941年秋、ナチス・ドイツ支配下のコペンハーゲン。アンマーク人でユダヤ系のボーア（浅野和之＝写真左）とマルグレーテ（宮沢りえ＝同ドイツ人の（段田安則）る。かつて世界的物理第2次世界の関係は難た。ナチス発ゲームにはベルクはこしてまで何の師に会い

マイケル・フレイン原作
小田島恒志訳、小川絵里子演出

１９４１年秋、ナチス占領下のデンマーク・コペンハーゲン。ドイツ人の物理学者ハイゼンベルグ（段田安則）は、かつて師とも慕っていたユダヤ系物理学者ボーア（浅野和之）とその妻マルグレータ（宮沢りえ）を訪ねた。共に研究の道を歩んできたはずが、今や敵対する国家に生きる２人の科学者。

あの日、２人は何を語り合い、妻は何を見つめたのか....?

のちの核開発競争を左右したという、史実にも残るあの謎の１日に大胆に迫る！

Nov. 16, 2014
我孫子サイエンスカフェ

原子核の世界を拓く

第二次大戦中の米、独、日の核開発競争物語

政池　明

京都大学名誉教授

ハイゼンベルグの苦悩

（ドイツの物理学の第一人者）

・1941年秋コペンハーゲン在住の恩師
ニールス・ボーアを訪ねて会談し、
両陣営の物理学者が協力して
原爆計画を阻止しようと提案したとされる。

（ボーアの証言によるとハイゼンベルグは
連合国の原爆計画画の頓挫を狙っていた。）

Library of Congress

ウェルナー・ハイゼンベルグ

・原爆開発を積極的には進めず。
・「原爆は理論的には可能だが、
すぐ完成させることは難しい」
と政府に報告。

ニールス・ボーア

・ドイツ南西部のハイガーロッホの教会の崖下の洞穴に
天然ウランと重水を用いた原子炉製作。

ドイツが最初の原子炉を建設したハイガーロッホの集落と丘の上の教会

ハイガーロッホ原子炉　（天然ウランと重水素による）

・1945年2月末に原子炉が完成し、運転を始め、
中性子数が6.7倍に足したが、重水がわずかに
足りなかったために核爆発の臨界に達しなかった。

ハイガーロッホの重水炉の模型　（洞窟内ミニ博物館）